2017ひろしま温暖化ストップ!フェア

きてみんさい!シャレオでクールシェア

小さな取り組みの広がり、継続に期待

シール貼り付け型アンケートで、日頃の取り組み状況を再確認

床面に大きく作ったあみだくじを使うCOOL CHOICE占いで、今日の取り組みをチェック!

7月28日、広島市の地下街シャレオ中央広場で「2017ひろしま温暖化ストップ!フェア」(主催:広島市地球温暖化対策地域協議会・広島市)が開催され、約3千9百人が参加しました。

午前11時、主催者のあいさつの後、ステージでは広島市消防音楽隊の演奏が行われ、午後はサンフレッチェ広島アンバサダーの森崎浩司氏によるトーク&サイン会、江波山気象館による科学実験教室や、フラダンス、ヒップホップダンスでにぎわいました。

ブースエリアでは、昨年同様「きてみんさい!シャレオでクールシェア」をキーワードに、団体、企業や行政機関など11ブースが設けられ、夏の過ごし方の提案をはじめ、家庭での省エネ取り組み事例、省エネ機器の紹介、環境に関する啓発展示や参加型のイベントなどが行われました。民間企業のブースでは、ネットゼロエネルギーハウス(ZEH)の紹介や燃料電池キットによる発電実演が行われたほか、環境への取り組み紹介や啓発パネル展示が行われました。

広島市地球温暖化対策地域協議会は、家庭の省エネ相談、ecoちゃりワーキンググループの活動紹介のほか、会場内の各ブースを回るクイズラリーを開催し、175人が参加しました。

広島県・ひろしま地球環境フォーラムは、うちエコ診断を行いました。事前に予約のあった4組と、当日参加5組の計9組に、各家庭に合った効果的な省エネ対策を提案しました。

脱温暖化センターひろしまは、クールチョイスの紹介パネルを展示し、COOL CHOICE占いを体験してもらいました。また、ブースを訪れた約190人に、シール貼り付け型のアンケート調査を行い、身近な取り組みの実践をお願いしました。

一人ひとりの小さな取り組みが広がり、つながり、継続することを期待します。

(脱温暖化センターひろしま)

COOL CHOICE

私のクールチョイス⑦

このコーナーでは、【買い替え】、【サービス】、【ライフスタイル】の3つの視点で、さまざまなクールチョイスの事例を紹介します。

【買い換え】省エネで高効率な家電、設備、建築物の低炭素製品への買い替えなど
【サービス】公共交通の利用やエコレールマークの付いた商品、グリーン電力の選択やスマートメーターによる「見える化」につながる低炭素サービスの選択など
【ライフスタイル】家庭でのエネルギー消費量・二酸化炭素排出量を減らす取り組みやエコドライブなど

今回から、公衛協、TEAMで活躍されているみなさんと、環保協の役職員が日頃取り組んでいる「私のクールチョイス」を紹介します。

【ライフスタイル】(エコタップや断熱シートの活用)

府中町脱温脱温暖化市民協議会代表、公衛協で活動しています。家庭では、エコタップや断熱シートの活用のほか、省エネ機器への買い替えも進めています。協議会では、緑の仲間フェスタの開催、環境家計簿の推進、出前講座のほか、緑のカーテン普及活動に力を入れており、例年10月のつばき祭りで緑のカーテンの表彰を行います。

高齢化が進み、取り組み協力や参加はあるものの、積極的な活動、新しい活動がなかなか広がらないこと、人材、財源の確保が課題です。

長く活動に参加してくれている人を大切にして活動を広げる原動力とし、新しい活動企画や活動だよりの発行、参加者同士のつながりを深めていきたいと思います。

(村竹　亥三男さん/府中町脱温暖化市民協議会会長・府中町公衆衛生推進協議会)

【ライフスタイル】(分別、資源リサイクルの徹底)

呉市公衛協の環境部会に所属しています。広地区はごみステーションの管理、一斉清掃のほか、学校・児童と協働で地域クリーン活動をしています。また、資源回収にも力を入れており、公衛協を含む自治活動の財源となっています。

我が家では、毎月1回行う資源回収のため、日頃からしっかり分別を行っています。また、奥さんはごみ減量、特に生ごみの水切りを心がけています。呉市では、公衛協、自治連の活動が密接に関わっており、普段は自治会単位で活動していますが、どうしても世帯数の多い街中とその他の地区で、取り組みに差ができます。地区の活動成果を振り返り、連合会で報告しあいながら、全体の活性化を図っていきたいと思います。

(古谷　哲さん/呉市公衆衛生推進協議会理事[環境部会])

【ライフスタイル】(徒歩、自転車で健康維持)

環保協理事長、瀬戸内海環境保全協会副会長、ひろしま地球環境フォーラム副会長として、組織の運営に携わっています。職場では、エレベーターを使わない、市内2km範囲は自転車で移動をマイルールとし、全職員にもこまめなクーラー、照明オフの徹底を呼び掛けています。家庭では、照明、室温管理はもちろん、早寝早起き、図書館でのクールシェア、夕方の打ち水などに取り組んでいますが、家族の生活時間帯がバラバラで効果的な節電、省エネにつながらないのが悩みです。

クールチョイスは、健康維持やリフレッシュと組み合わせることで無理なく続けられます。みなさん一人ひとりが生活を見直し、自身の取り組みとしてもらえれば嬉しく思います。

(佐藤　均さん/一般財団法人広島県環境保健協会理事長)

食チェック事業22公衛協が参加

健康づくりメニュー検討の材料に

注目の中、おたのしみ抽選会がスタート

平成29年6月19日から25日の1週間、約1万人の公衆衛生推進委員を対象に、毎日の食事でどんな食品を摂取したかをチェックする「1万人の食チェック事業　強化期間」が終了しました。おたのしみ抽選会を行った7月7日現在で、提出された食チェックカードは3千183枚でした。今回は提出されたカードの結果を報告します。

今年度は全県の推進委員9千147人のうち、34・8%にあたる3千183人が参加し、昨年度の実践率(36・2%)を約1・5%下回りました。

公衛協別に見てみると、県内で最も高かったのが坂町で100%、次いで大崎上島町(88・2%)、竹原市(81・8%)となっており、昨年度と同様でした。昨年度と比較して実践率の上昇率が高かったところは江田島市(20・1%)、尾道市(11・1%)、海田町(9・8%)でした。

また、実践率50%を達成した公衛協は11団体で、昨年度と同じでした。今年度は、カードの提出方法に「カードをポストへ投函する(料金受取人払)」を導入し、実践率の向上を試みました。その結果、料金受取人払を利用した公衛協のうち、海田町で9・8%、三原市で8・2%上昇し、料金受取人払による提出方法の有効性が感じられました。

提出されたカードのコメント欄には、「バランスを気にしながら食べた」「たんぱく質、食物繊維を摂るようにしている」など、バランスを意識して食事をしたことがわかりました。また、「偏っている」「副菜が不足している」など、食生活の課題が明らかになった人も多かったようです。

カードに記録された結果は現在集計中で11月の専門部会(健康部会)で詳細を報告する予定。特に、今年度からの目標である「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日食べている人の割合70%以上」に対して、どのような現状なのか、注目していきたいと思います。

(地域活動支援センター)